

# 跡見学園女子大学 学報



跡見学園女子大学は、キャンパス内における学生の様々な活動、地域連携における活発な取り組み、更には広く世界にその場を広げる足掛かりとしての国際交流活動に積極的に取り組んでおります。

本学は、今年度、これまで以上に地域交流の取り組みを展開し、国際交流に関しても新たな取り組みを開始いたしました。ピシケク人文大学（キルギス共和国）との学術講演会の開催、これまでの国立スターリング大学（英国）に加え、ロイヤルローズ大学（カナダ）、国立政治大学（台湾）への学生派遣を新たに実施いたしました。

本学は、平成27年度には新たな学部として『観光コミュニティ学部』の設置認可申請中です。

「実践力を備えた教養人・品性ある社会人・自律し自立した女性」教育を目指した、学内外での学生の活躍をご紹介します。

## 記事内容

- 跡見花躰記念奨学生表彰 ○跡見校友会一紫会大学院奨学生表彰 .....(2)
- 平成26年度 文京区との連携事業「シニアプラザ事業」報告 .....(3)
- 夏期海外研修 .....(4)
- キルギス共和国・国立ピシケク人文大学との学術交流協定に基づく第1回学術講演会・第16回異文化交流フォーラム
- 全学教育・研究支援委員会主催 全学FDシンポジウム「ゼミ運営の進め方について」
- 株明治との連携による課題解決型授業 .....(5)
- 第47回紫祭桜華爛漫 ○学生会情報 .....(6)
- CLUB NOW ○リメイクファッションショー（跡見ガールズコレクション2014）を終えて
- 図書館トピックス .....(7)
- ゼミ紹介 ○「ATOMI インターンシップ」実施報告 ○平成26年度アカデミックインターンシップの概況 .....(8)
- 「4年生体験報告」～キャリアセミナー4より～ .....(9)
- 平成26年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」 .....(10)
- 27年度 大学入試日程 .....(11)
- 行事予定 ○節電の取り組み ○花躰記念資料館だより ○編集後記 .....(12)

## 跡見花蹊記念奨学生表彰

平成26年6月20日（新座キャンパス）および平成26年6月24日（文京キャンパス）に学業奨励賞として跡見花蹊記念奨学生73名が表彰されました。

奨学生は前年度の学業成績上位者から選考され、表彰状と奨学金（授業料の1学期分相当額）が支給されました。

### ●学部2年生

#### 文学部人文学科

伊東 明日香 小山内 まりな 萱野 千晴 黒沢 奈央  
日向野 恵 矢部 絵里

#### 文学部現代文化表現学科

鈴木 ななみ 都留 朋子 柳下 裕美

#### 文学部コミュニケーション文化学科

佐藤 絵理奈 塚越 絵理子 松尾 かおり

#### 文学部臨床心理学科

牛久保 友理 荻野 友梨香 山田 美帆 湯本 絢香

#### マネジメント学部マネジメント学科

梅原 悠里 荻野 詩織 久田 春菜 澤井 聖香  
瀬尾 香純 田村 文香

#### マネジメント学部観光マネジメント学科

佐々山 莉歩 橋本 真美 松村 美貴

#### マネジメント学部生活環境マネジメント学科

名取 優香 松田 くるみ

### ●学部3年生

#### 文学部人文学科

坂本 保奈美 谷口 加菜 増田 琴美 渡邊 淳美

#### 文学部現代文化表現学科

秋山 雅 佐藤 美紘 堀 友紀菜

#### 文学部コミュニケーション文化学科

木幡 友嘉 太齋 友紀子 中山 柚依

#### 文学部臨床心理学科

尾崎 光紗 金田 侑子 宮澤 友花里

#### マネジメント学部マネジメント学科

今松 葵 黒須 珠希 濱田 真梨子 山本 絵理香  
長島 礼佳

#### マネジメント学部観光マネジメント学科

神田 詩織 柳 美由紀

#### マネジメント学部生活環境マネジメント学科

半谷 彩恵 吉田 佳連

### ●学部4年生

#### 文学部人文学科

岩崎 玲奈 大田 のぞみ 金子 礼果  
倉持 幸恵 田島 春奈

#### 文学部現代文化表現学科

池田 裕里香 岡田 愛梨

#### 文学部コミュニケーション文化学科

榎本 亜津紗 酒井 彩奈 清水 結衣 遠藤 聡子

#### 文学部臨床心理学科

遠藤 文香 高野 静香 濱永 翔子

#### マネジメント学部マネジメント学科

遠山 美咲 芦野 なつみ 稲原 郁 小野寺 梨菜  
山田 咲葉

#### マネジメント学部観光マネジメント学科

田中 夏帆 渡辺 泉

#### マネジメント学部生活環境マネジメント学科

天野 真奈美

### ●大学院2年生

#### 人文科学研究科臨床心理学専攻

加藤 美佳

#### マネジメント研究科マネジメント専攻

饒 嵐



## 跡見校友会一紫会大学院奨学生表彰

平成26年6月27日に学業奨励賞として3名の跡見校友会一紫会大学院奨学生が表彰されました。

奨学生は前年度の学業成績上位者の中から決定し、表彰状と奨学金（授業料の一学期分の二分の一相当額）が支給されました。

### ●大学院2年生

#### 人文科学研究科臨床心理学専攻

斉藤 暁子 相馬 理沙 長谷川 恵



## 平成26年度 文京区との連携事業「シニアプラザ事業」報告

4月の「シニアプラザ事業」のキックオフ（オープニングセレモニーと記念の輪投げ交流会）からスタートした、その後の取り組みをご紹介します。連携事業の様子は、新聞等でも大きく取り上げられました。

### 5月から7月

文の京介<sup>ふみ みやこ</sup>護予防体操（区民を対象に日々の生活に軽い運動を取り入れることで健康維持と寝たきり防止を図ることを目的とした予防体操）が全12回のスケジュールで行われました。跡見ギャラリー講義室を会場とした、学生参加型という区内はじめての試みの体操教室です。学生が主体となる「認知症予防レクリエーション」は、参加者にとっても好評でした。この体操教室は、第2期として10月から12月まで全12回で開催されます。



### 6月

「シニアのためのパソコン教室（入門編）」は、3日間集中講義形式で開催（跡見ギャラリー講義室）されました。開催を前に、区の担当者から、「ICT社会の中、タブレットPC（端末）、スマートフォン等の機器を活用することで、日々の暮らしに役立ち、また、より安心・安全な暮らしを送れるよう、機器の習熟度アップも視野に入れた教室である。将来的には在宅医療や災害時の安否確認等に寄与するものと考えている。」と話がありました。これを踏まえて参加した学生は、感想、提言をまとめて、区の担当者に報告するなど、積極的に取り組んでいました。

### 7月

プロッサムホールで文京区認知症施策総合推進事業の「自分らしく暮らし続けるために～認知症の本人、家族、みんなで支えあうまちづくり～」をテーマとした講演会が開催されました。この講演会へは臨床心理学科の宮岡佳子教授が登壇し、「大学でシニアカフェ開店します」—大学における臨床心理学的高齢者援助—のタイトルで講演をしました。会場は、多くの聴講者が参加し、「認知症」への関心の高さが伺えました。「認知症」のテーマに関心のある学生が、当日の運営を手伝うなどの積極的な参加もありました。

### 6月、7月

さくらルーム（跡見ギャラリー2階）で、昨年に引き続き、臨床心理学科が主催のシニアのためのコミュニティカフェが開催されました。学生と一緒にお茶をしながら、おしゃべりやゲームを楽しみ、こころの健康増進を図ります。6月は「昔の遊び、今の遊び」、7月は「昔の食べ物、今の食べ物」をおしゃべりテーマとして、文京区高齢者クラブ連合会（以下、文高連）の会員を中心に多くの参加者（抽選となるほどの賑わい振り）に、とても好評でした。

### 7月

浴衣の着付け教室が開催されました。文高連の会員が講師となって、学生に浴衣の着付けを指導しました。当日は、文京朝顔・ほおずき市の開催日で、市の運営、出店参加のゼミの学生が着付け指導を受けました。浴衣姿で運営に携わり、市の雰囲気さをさらに盛り上げました。浴衣の着付けだけでなく、マナーや所作、着物にまつわる話などもあり、日本の伝統文化に関心を持つきっかけともなりました。

### 11月

健康まち歩きとして学生が作った区内探訪コースを高齢者と一緒に歩く取り組みが計画されています。文高連の会員からアドバイスを受け、区の担当者と幾度も打ち合わせを重ね、学生たちが、対象の施設を訪ね歩き作り上げた資料の完成度の高さは、文高連の会員、区の担当者からも、高く評価されました。

最初は互いに戸惑いつつも、交流を重ねていくうちに打ち解け、参加者の皆さんから異口同音に「楽しかった。」「また、開催してね。」という温かい言葉や感想を寄せただけだことは、学生たちにとって大きな励みと自信につながったことでしょう。高齢者の知識や経験を授かり、交流体験を活かしながら発想力や提案力を育むこと、「学生の若い力」から元気のエネルギーをもらうことができること、まさに双方向の取り組みとなっていることを強く感じるとともに、平成27年4月に新設の観光コミュニティ学部（設置認可申請中）につながっていくものと確信しています。

# 夏 期 海 外 研 修

## 夏期海外研修総括

全学共通科目運営センター長 石田 信一

今年度の夏期海外研修は英国・国立スターリング大学(H26.8/3~9/3)、台湾・国立政治大学(H26.8/3~26)、カナダ・ロイヤルローズ大学(H26.8/11~9/8)の3校で行われた。国立スターリング大学への参加者は過去最高の52名を記録したほか、初めての研修先である国立政治大学とロイヤルローズ大学への参加者もそれぞれ6名、10名の募集定員を確保した。国立スターリング大学と国立政治大学のプログラムは、きめ細かな語学(英語/中国語)の授業・指導に加えて、週末の小旅行を含む歴史遺産散策などのアクティビティも充実し、学生に研修先の歴史や文化を学びながら語学の実践力を試す機会を提供している。ロイヤルローズ大学はこれとは違い、インターンシップ/ワークエクスペリエンス(就労体験)を行いながら英語を実践的に身につけるという特徴的なプログラムとなっている。この経験が外国語の運用能力の向上や国際的な視野の獲得につながることに期待したい。

## 英国国立スターリング大学での語学研修を終えて



現代文化表現学科3年 鈴木 美和

私は今回の研修が初めての海外経験でした。全く新しい世界に対し始めは不安が大きく、簡単な英会話も儘なりませんでしたが、先生方や友人たちに恵まれ自然と抵抗なく英語を話せるようになりました。日々の授業や観光、かねてより興味があった英語劇への挑戦を通じ、多様な表現を学ぶことができました。それらがロンドンで通用した際には自分にとって大きな自信へととなりました。私は今回の研修に参加したことで、英語が数ある言語の一つだと認識できるようになり、親しみを持つことができました。今後は英語力をさらに磨き様々な国の人々とお芝居を作ることが目標です。今回の研修で得た語学力や経験、出会いは一生の宝物になりました。



## ロイヤルローズ大学(カナダ)での語学研修を終えて



文学部人文学科2年 加藤 夏未

初めての海外であったこの研修は、ホームステイ、ワークエクスペリエンスと貴重な体験をすることができました。大学の講義で働く上で大切な事を学べたため、ワークエクスペリエンス先の幼稚園で子どもたちや先生方とコミュニケーションをとることができ、語学力向上につながりました。また、この研修で最も学んだことは文化の違いです。バスで降りる場所が分からず涙を流したり、カナダの文化を知って日本の良さを改めて実感することもありました。自分の無力さに気づき、環境に合わせた生き方を探し、英語で想いを伝えながら生活することは大変勉強になりました。この研修に送り出してくれた家族、企画・運営をして下さった大学や現地の方々への感謝の気持ちを忘れず、自分の将来へ活かしていきたいと思ひます。



## 国立政治大学(台湾)での語学研修を終えて



臨床心理学科2年 湯本 絢香

私は大学で中国語を学び始めたことをきっかけに深く興味をもち、実際に中国語を使っている国に行きたいと思いました。自分の語学力での授業や生活に対したくさんの不安もありましたが、様々な面で互いに支えあいながら積極的に取り組むことができました。授業では、動作を交えて中国語や異文化を学びました。実際の生活の中でも徐々に使うと、より馴染むことができました。また、台湾の人たちは私の拙い中国語にも耳を傾けてくれる親切な人が多く、活気のある印象を受けました。

今回の研修を通して、異文化交流には勇気も必要である、とあらゆる面で実感し自分には不足している点だと気づきました。短い期間でしたが自分の実力を知ることができ、これからも前向きに学習を続けたいと思ひます。謝謝!



## キルギス共和国・国立ビシケク人文大学との学術交流協定に基づく 第1回学術講演会・第16回異文化交流フォーラム

2014年7月31日(木)、文京キャンパスにてキルギス共和国・国立ビシケク人文大学との学術交流協定に基づく第1回学術講演会を実施しました。大学院人文科学研究科日本文化専攻による第16回異文化交流フォーラムを兼ねる形となっています。

東洋国際関係学部日本語日本文学科学科長である氏原名美教授を講師にお迎えし、海外で働くことの勤め、外国における日本語教育の難点や、異文化理解の重要性など多角的な視点で講演していただきました。



## 全学教育・研究支援委員会主催 全学FDシンポジウム「ゼミ運営の進め方について」

平成26年7月23日(水)13時～14時30分・図書館視聴覚ホール 委員長 神山 伸弘

学部専門のいわゆる「ゼミ」は、それぞれ分野の専門知識や固有の方法・技能を習得するもので、学生は、これを基盤に教員の指導を受けながら卒業論文・卒業研究を仕上げていきます。分野ごとの特性に応じた指導が中心でも、学生を導く方法論には他分野に学ぶところも多いのではないかと、という見通しのもとに、先進的な運営経験をお持ちの先生方にその進め方のご紹介をいただき、質疑応答でそのあり方を深めました。

ご提題は、マネジメント学部マネジメント学科「展開ゼミナール」担当芝原脩次先生の「知行合一（理論と実践の場づくりとゼミ運営から“人材を育てる”～年間50のプロジェクト活動。地球がキャンパス～）」、同生活環境マネジメント学科石渡尚子先生の「PDCA サイクルを意識したゼミ運営」、文学部人文学科奈倉哲三先生の「学生を《鍛える》ゼミと専門科目授業」でした。

いずれの実践でも、学生がみずから主体的に学ぶ工夫が施されています。芝原ゼミは、人材育成の「場とチャンス」を与える「道場」として、自主運営のサブゼミも立ちあげながら、さまざまなプロジェクトに取り組みます。石渡ゼミは、PDCA サイクルを意識しながらチームとして成果を出す経験を積む場として、「食のリスクマネジメント」の理論を学びつつ「川口B級グルメフェスティバル」で実践を積み重ねます。奈倉ゼミは、3年次の早い段階で学生の「個性と関心」から「走れるテーマ」を引き出し、共通資料の集団読みと個人テーマ探求を両輪として資料読みの能力と卒論執筆能力を高めていきます。

これら実践の一番大きな要は、教員の指導の場を離れてもゼミの学生どうしが一体感をもって連絡を取り合って課題に取り組み、課外でも連帯して学習し実践する動機づけを与えていることです。こうした工夫に学ぶべきことが多く得られたシンポジウムでした。

## 株明治との連携による課題解決型授業

生活環境マネジメント学科 宮崎 正浩

大学では学生の主体的な学びが求められており、その中で企業と連携した課題解決型授業（PBL）が注目されている。そこで、プロゼミⅠにおいて株明治との連携授業を平成26年4月から開始した。

本授業は4月22日の課題出しから始まった（写真）。株明治がカカオを購入しているガーナのカカオ農家は、重労働であり、天候に左右されるため経営が苦しい。このため、同社はカカオ農家に対し農業指導や井戸の寄贈等の支援を行っているが、これはほとんど知られていない。本授業の課題は、株明治のこの活動を世の中に周知する方法を学生が提案することであった。

これを受けて学生は、まずは自由討議を行い、その結果から4班に分かれて具体的な提案を検討した。その結果は6月17日の中間発表で発表し、これに対し株明治の方からは社内の提案として必要な点を具体的に指摘していただいた。その後学生はさらに提案内容を詰めるとともに、それらを実施した場合にどの程度効果があるかを明らかにするための学内アンケート調査を行った。なお、授業の様子は7月14日の日経産業新聞で紹介された。

7月15日の最終発表では、学生は現状のPR方法の問題点を基に、新たにCM、製品包装でのPR、イベント開催等を提案した。株明治の方からは、「いずれも効果が期待できる内容であり、参考にさせて頂きたい」との評価をいただいた。

学生によっては初めての経験であり、困難なことも多々あったが、得るものは大きかったようである。来年度も継続し、改善を図りたいと考えている。



第47回 紫祭  
**桜華爛漫**  
 2014.11.1(sat)~11.2(sun)  
 新座キャンパスにて開催

ごきげんよう!

紫祭実行委員会です。今年の紫祭のテーマは『桜華爛漫』。

跡見学園女子大学には45種類188本の桜の木があり、春の訪れとともに満開になります。その多種多様な姿と、跡見学園女子大学でともに学び、それぞれの道へ歩みだす跡見生の未来を重ねました。

また、「桜華爛漫」には「桜の花が満開になって、見事に咲き誇っているさま」という意味があります。私たちは桜花の「花」を本来の女性らしさである凛とした芯の強さとしなやかさを兼ね備えた跡見生の姿と重ね、華があるという意味の「華」の字に変え、今年のテーマの文字を『桜華爛漫』といたしました。

昨年よりもパワーアップした紫祭を作るため、実行委員一同力を合わせて頑張ります。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひ紫祭にご来場ください。



### 参加団体企画一覧

飲食販売		展示・発表	
○コープガールズ	○山下ゼミ2年	○ATOMI♡GIRLS	○写真部
○チョコレート愛好会	○山澤ゼミ3年	○エコキャンパス研究会	○書道部
○バスケットボール部	○紫祭実行委員会	○お絵かき同好会	○手芸愛好会
○バドミントン部	○芝原ゼミ2年	○サイコロ倶楽部	○跡見ウィンドオーケストラ
○ホットドックちゃん	○芝原ゼミ3年	○ダンス部 A☆fig	○篠原ゼミ
○ボランティアサークルさくら	○芝原ゼミ4年	○ルネサンスクラブ	○田中ゼミ3年
○マンドリンクラブ	○村上ゼミ2年	○演劇部	○田中ゼミ4年
○ロリーポップ	○村上ゼミ3年	○華道部	○美術部
○学生会本部	○村上ゼミ4年	○競技ダンス部	○文学研究部
○跡見ニューツーリズム研究会	○茶道部	○軽音楽部	○放送文化研究部
○心理学検定部	○映像映画愛好会	○広告研究部	○漫画研究部
○紅茶クラブ	○軟式野球部	○合唱団	○冷やし中華出遅れました。
		○焼き物研究部	○山澤ゼミ2年
		○図書館ボランティア	○アイドルマスター愛好会

※企画内容は変更する場合がございます。ご了承ください。

## 学生会情報

学生会本部 会長 浅子 如奈

ごきげんよう。辺りもすっかり秋景色、秋空高くさわやかな好季節となりだした中、秋学期がはじまりました。今回は、6月18日(水)に開催されました、学生総会および学長と語る会についてご報告させていただきます。

学生総会では、平成25年度決算報告、平成26年度予算および新規設立団体等の審議を行い、全て無事に承認されました。学長と語る会では、学長、副学長、学務部長、事務局長にご出席いただき、事前に寄せられた、カラスの駆除について、学パスの運行時間について等の要望に丁寧なご回答をいただきました。その他にも、その場でた学生からの意見や要望にもご回答いただき、と

ても充実した会となりました。ご出席いただいた先生方、学生の皆さんご協力誠にありがとうございました。出席できなかった皆さんはぜひ議事録をご覧ください。来年度以降もより良い会が開けるよう学生会本部一同努力していきたいと思ひます。

そして最後にご案内を一つ。今年も11月1・2日に紫祭を行います。学生会本部はわたあめを販売致します。学生会本部と紫祭実行委員会が共催する後夜祭では打ち上げ花火も行います。ぜひお越し下さい。お待ちしております！



## CLUB Now

### 紅茶クラブ

こんにちは。紅茶クラブです。私たち紅茶クラブは、お菓子と一緒に紅茶の飲み比べを週一で行っている優雅なクラブです♪毎週色々な紅茶が飲めるので、全く紅茶のことを知らない方でも紅茶マニアになれます！今年は34人も新入部員が入ってくれたので一段と明るいサークルになりました。今年の11月1日、2日で開催する紫祭では愛情たっぷりの手作りのお菓子と部員たちが心を込めて淹れた紅茶を売って喫茶店を運営します。「これって紅茶なの？」と思うような珍しい紅茶もたくさん用意するので、多くの方に紅茶に興味を持っていただきたいと思います。是非、ご来場ください！お待ちしております(^o^)



### リメイクファッションショー (跡見ガールズコレクション2014)を終えて

生活環境マネジメント学科准教授 内村 理奈

今年で4回目になるリメイクファッションショーを7月27日(日)のオープンキャンパス(新座、KMHにて)の私の模擬授業の中で行いました。今年のテーマは「Conte de fées～童話の世界」で、村娘のCountryチーム、魔法のDarkチーム、妖精のFairyチーム、お姫様のPrincessチーム、最後にウェディングドレスの順番で演出し発表しました。ウェディングドレスは、初回の2011年度で作成したものに代わりメイクを重ねてきた作品になりました。来場くださった多くの高校生から「生活環境マネジメント学科に興味をもった」「この大学いいな～と思えました」「見に来てよかったです」「すごかったです。私も入学してやってみたいと思いました」と好評をいただきました。



### 図書館トピックス

#### 1、第5回図書館・情報メディアセンター共同開催講演会開催

図書館では、毎年その年最も注目を集めた図書館に関する話題をテーマに講演会を開催して参りました。今回は、「電子図書は何をどこまで変えるか」と題し、㈱日本電子図書館サービス取締役野田透氏を講師にお招きして、6月11日(水)新座図書館視聴覚ホールにて開催いたしました。

#### 2、第6回百人一首・花蹊関係新収資料展

本学図書館の誇る百人一首コレクションおよび学祖跡見花蹊に関わる資料で、平成25年度秋学期に購入した資料を中心に展示する新収資料展が5月9日(金)から31日(土)にわたって、新座図書館展示室で開催されました。



POP 展示会

#### 3、図書館ボランティアによるブックハンティングとPOP展示会

「学生の知的関心に応える本を」という選書方針の下、学生自身

による図書選書ツアー、ブックハンティングを5月21日(水)、新宿紀伊国屋書店本店で開催しました。当日は図書館ボランティア15名が参加し、各フロアで思い思いに選書しました。

その後、書店員の方からPOP作成のノウハウを教えていただき、自らハンティングした本のPOPを作成しました。7月17日(木)から8月6日(水)まで同書店2階フロアにて「学生の学生による学生のためのおすすめ本フェア」が開催されました。

#### 4、図書館ボランティアに「かるた部会」発足

本学図書館の百人一首コレクションは日本有数の規模と内容を誇っていますが、学生が直接百人一首に関わる機会はあまりありませんでした。

そこで、百人一首かるたを通じて、百人一首を生きた教養として身近に感じてもらえるように、図書館ボランティア「かるた部会」を立ち上げました。



かるた部会

## ゼミ紹介

文学部コミュニケーション文化学科  
准教授 中村 聡

## 「コミュニケーション文化学演習Ⅰ」

本ゼミナールのテーマは「現代英語の多様性を探る」です。3年生対象の「演習Ⅰ」では、第一言語・第二言語として世界で話されている様々な英語のモデルとされるイギリス英語とアメリカ英語を、語法面・文法面・音声面等から比較研究します。世界の諸英語はイギリス英語系かアメリカ英語系のどちらかに大別できるからです。「演習Ⅰ」で学ぶ内容は、4年生対象の「演習Ⅱ」での英米英語以外の英語変種研究の礎となるものです。第5セメスターから第6セメスターにかけては、テキストに指定した2冊の書籍を通して、英米の社会構造の違いも視野に入れ、両英語の相違点を考察します。第6セメスター後半では、それまでの授業内容から各自が追究したいテーマを見つけ、自ら集めた言語データを用いて研究発表を行います。英語を研究対象とすることに興味をもつ学生が年々減っている



気がします。そんな中、個性的な3年生が10数名集まり、うれしく思っています。

マネジメント学部マネジメント学科  
助教 許 伸江

## 「展開ゼミナール(中小企業とベンチャー企業のマネジメント)」

許ゼミでは、中小企業、ベンチャー企業、起業、地域活性化などについて研究しています。春学期は中小企業に関する基礎的文献を輪読・グループ発表を行い、企業数の約99%を占める中小企業についての理解を深めました。秋学期は自分達で選んだテーマでグループ研究を進め、12月の他大学との合同研究発表会にて成果を報告します。今年のテーマは「おひとり様ビジネス」、「プレミアム商品戦略」、「コミュニティカフェ」など、今から楽しみな内容です。

もう1つ重視しているのが、積極的な学外活動です。今年は、東京都台東区の徒蔵(カチクラ)地域のまちづくりイベントにボランティアとして参加。さらに職人の工房見学をして、職人技に感動した様子のゼミ生達でした。また、墨田区の皮革産業の方々と連携し、跡見オリジナル名刺入れを企画販売するという実践的な活動も行っています。ゼミ活動を通じて、学外の多様な立場や意見の方々と交流し、視野を広げています。



## 「ATOMI インターンシップ」実施報告

今年で実施17年目を迎えた就職課主催の「ATOMI インターンシップ」は、昨年の約2倍にあたる33企業・4自治体に拡大して実施され、計70名(3年生:56名、2年生:14名)もの実習生たちが、各々が選択した企業等に分かれて就業体験に臨みました。

当プログラムは、全3年生と文学部2年生を対象に幅広く募集する形式で、8、9月の夏季休業期間を利用して実施されます。単位認定は無いものの、企業等が広く一般に募集する「公募型」を補完する位置付けとしても活用されています。

実習先の業種・職種も実に幅広く、営業実習や事務実習以外にも、その業界の成り立ちや仕組みを学ぶメニューや、中には、実際に企業が抱える課題の解決や新商品開発に関わるプログラムがあったりと、皆多くの刺激を受け実習を終えました。就職課としては、今後も、学生たちが納得できる進路選択をできるよう、職業観を育成する支援の一つとして当プログラムを運営してまいります。

平成26年度  
アカデミックインターンシップの概況

マネジメント学部長 大野 二郎

アカデミックインターンシップは、今年度で12回目、対象はマネジメント学部の2年生が全員で、必修科目となる。この行事はマネジメント学部が開設された翌年の03年に1回目が実施された。

文科省への設置申請で約束した、2年生全員が対象のため、学部の開設年度には、翌年での確実な実施に向けて、学部の教員が手分けして派遣先開拓にあたり、跡見のインターンシップ元年には200名弱の2年生を無事に送り出した。それから12年目の今年度は、その規模は450名を超えており、派遣先のご理解とご協力により、当初からは大幅に拡大し200社・団体を超えている。

その実施形態は、当初は自宅などから毎日通勤する形態であったが、観光マネジメント学科が加わり、リゾートホテルなどでの宿泊型インターンが導入され、さらに今年度から、海外での語学研修とあわせた、海外でのインターンシップも開始されるなど、多様な形で実施されている。

今年も参加する学生の無事終了と貴重な体験が得られることを期待したい。

## 平成26年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」

研究課題名「近現代にパリ万国博が果たした役割についての実証的研究：万国博組織委員会を中心に」

文学部人文学科助教 寺本 敬子

万国博覧会は、現在も継続的に開催されている国際的催しですが、その土台を築いたのは19世紀後半のパリ万国博に他なりません。パリ万国博は、現在までに計6回開催され、その内5回は全て19世紀後半に開催されました。万国博の歴史において、このように同じ都市で、複数回にわたって開催された例は他にありません。これに対し20世紀に入ると、パリ万国博の計画は幾度か持ち上がるものの、1937年の開催を除いて、いずれも実現には至りませんでした。このようにパリ万国博は、特に「19世紀後半」のフランスを特徴づけるものであったと言えます。また、その運営形態は、20世紀以降の他国での万国博の範例となりました。1928年に設立された博覧会国際事務局は、パリを本部に現在も中心的役

割を担い続けています。

本研究は、パリ万国博を対象に、その運営を担った組織委員会の活動の分析し、19世紀後半のフランスにおいて何故繰り返し万国博が開催されたのか、その歴史的意義の解明を目指します。この研究目的を達成するため、研究方法としては、歴史学的アプローチに基づき、フランス国立文書館等において組織委員会の報告書・議事録等の史料調査を行います。組織委員会の実態を分析し、いかなる動因によってこれらの催事が開かれたのか、その特殊性と範例性はどこに存するのかを検討し、近現代史においてパリ万国博が果たした役割を明らかにしていきたいと考えています。

研究課題名「学校コミュニティでの心理職活用を促進する学校マネジメントシステムの開発」

文学部臨床心理学科教授 山口 豊一

学校コミュニティ（学校を中心とする教育委員会単位の地域・社会）の中でスクールカウンセラー等の心理職（スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア相談員や学生相談員等を指し、以下「心理職」と表記します）に対するニーズが高まっています。平成7年以来、文部省（現文部科学省）により、全国の公立中学校へ順次スクールカウンセラーが配置され、平成17年度までに全国の公立中学校に定着しました。しかし、学校組織における心理職の位置づけ、活用方法に関する包括的、実証的な研究は見られず、それらは個々の管理職および心理職の力量に委ねられていました。そのため、管理職もしくは心理職が異動すれば、その学校ではまた白紙に近い状態から、それらを考える必要があります。そ

のような状況を鑑みると、わが国の学校コミュニティの中で、心理職を活用するための学校マネジメントシステム（「ここでのマネジメントシステムとは、心理職を活用する体制・組織、企画・運営を指します」）の開発・整備は、学校心理学の緊急課題であると考えられます。

そこで本研究では、先ず学校コミュニティの責任的役割を担っている学校の管理職や市町村教育委員会を対象に聞き取り調査を行い、心理職の活用に関する現状の課題を整理します。次に、アンケート調査、面接調査およびモデル地区における実践研究を行い、学校コミュニティにおいて、心理職の活用を促進する学校マネジメントシステムの効果的な在り方を提示することを目指します。

研究課題名「大規模災害で被災した子どもの貧困防止策—給付の在り方を中心として」

マネジメント学部マネジメント学科准教授 鷹 咲子

震災により、親を失ったり、親が失業したり、家庭が生活基盤を失ったことにより多くの子どもが貧困に陥りつつある。また、被災からの回復は一様ではなく、震災前から貧困状態にあった家庭においては、さらなる子どもの貧困の悪化が懸念される。本研究は、東日本大震災及び未だ収束しない原発災害のように、長期的な避難を余儀なくされる大規模災害で被災した子どもの貧困を防止するための給付の在り方を提案することを目的とする。さらに、災害救助という普遍的な制度に、「子どもの貧困」を防ぐための機能を持たせることを検討する。

このために、被災地における就学援助、学校給食のような公的な現金、現物・サービス給付及び民間も含めた「子どもの貧困」を防ぐための支援について実態を調査

する。大規模災害で被災した子どもの貧困防止策として、より適切な現金給付、現物・サービス給付の在り方を提案する。

論争的な概念である貧困について合理的な議論を形成し、災害時に子どもが貧困に陥ることを防ぐという合意形成に向けて、政策と制度の現実について、具体的なデータに基づく研究を行うことが本研究の特色である。被災した子どもへの給付は限定的で、地域差が大きいと考えられる。本研究には、災害救助という普遍的な制度を「子どもの貧困防止」という視点から検証し、被災した子どもを貧困から守る具体的方策を提案するという意義がある。

## 27年度 大学入試日程

### 【大 学】文学部およびマネジメント学部 全学科共通

※詳細は平成27年度入学試験要項にて確認してください。観光コミュニティ学部に関しては設置認可後に公表します。

入試方式	出願期間		試験日 <sup>※2</sup>	試験科目・選抜方法	合格発表日
	郵送（締切日消印有効）	窓口 <sup>※1</sup>			
公募推薦(11月期) 帰国生・社会人	26年10月27日(月)～11月4日(火) 〔郵送のみ〕		26年11月9日(日)	面接	26年11月13日(木)
一般A方式	A1方式	27年1月7日(水)～1月19日(月) 1月20日(火)、1月21日(水)	27年1月25日(日)	国語、英語、地歴・ 公民、数学から2 教科にわたり2科 目	27年1月29日(木)
	A2方式	27年1月7日(水)～1月23日(金) 1月26日(月)、1月27日(火)	27年2月1日(日)		27年2月5日(木)
一般B方式	B1方式	27年2月2日(月)～2月16日(月) 2月17日(火)、2月18日(水)	27年2月21日(土)	国語・英語	27年2月25日(水)
	B2方式	27年2月16日(月)～2月25日(水) 2月26日(木)、2月27日(金)	27年3月3日(火)		27年3月6日(金)
大学入試 センター試験 利用入試	I期	27年1月7日(水)～2月9日(月) 2月10日(火)	大学入試センター試験 〔27年1月17日(土) ／1月18日(日)〕	2教科2科目を選択	27年2月16日(月)
	II期	27年2月27日(金)～3月6日(金) 3月9日(月)		3教科3科目を選択	27年3月14日(土)
一般AO入試 <sup>※3</sup>	11月期	26年10月27日(月)～11月4日(火) 〔郵送のみ〕	出願後、面談・試験は ありません	面談 課題レポート	26年11月13日(木)
	12月期	26年12月1日(月)～12月8日(月) 〔郵送のみ〕			26年12月18日(木)
論文AO入試	26年12月1日(月)～12月8日(月) 〔郵送のみ〕		26年12月14日(日)	論文	26年12月18日(木)
編入学・学士入試 <sup>※4</sup>	26年10月27日(月)～11月4日(火) 〔郵送のみ〕		26年11月9日(日)	筆記試験(小論文)、 口述試験	26年11月13日(木)

#### 〈備考〉

- ※1 窓口出願場所は文京キャンパス、新座キャンパスです。(10:00～16:00)
- ※2 試験会場は、以下の一般入試を除き、新座キャンパスです。  
〔A2方式〕文京キャンパス／学外会場(宇都宮・高崎・柏・千葉)  
〔A1、B1、B2方式〕文京キャンパス
- ※3 面談・課題レポート(2テーマ)を完了した方のみ出願できます。  
面談予約期間：9月14日(日)～11月17日(月)、面談日：11月22日(土)(12月期の出願が可能です。)
- ※4 文学部臨床心理学科については、編入学・学士入学試験とも実施しません。

### 【大学院】全研究科全専攻共通

入試方式	出願期間		試験日	試験・選抜方法	合格発表日
	郵送（締切日消印有効）				
一般・社会人 〔後期試験〕	27年1月26日(月)～2月3日(火)		27年2月11日(水・祝)	下記参照 <sup>※5</sup>	27年2月16日(月)

#### 〈備考〉

- ※5 試験内容は下記のとおりです。  
〔一般入試〕臨床心理学専攻：筆記試験(専門、外国語(英語))、口述試験  
日本文化専攻／マネジメント専攻：筆記試験(専門、外国語(英語または日本語※))、口述試験  
※外国語(日本語)は、外国人留学生のみ受験可能。  
※外国人留学生は、外国語(日本語)を必須とする。  
※外国語(英語)試験での英和辞書の参照を可とする。英和辞書は貸与する。  
〔社会人入試〕臨床心理学専攻：筆記試験(小論文、外国語(英語))、口述試験  
日本文化専攻／マネジメント専攻：筆記試験(小論文)、口述試験

・日本文化専攻・マネジメント専攻においては、AO入試も実施しています。ご希望の方は入試課(048-478-3338)までお問い合わせください。

◆ 行事予定 ◆

10月	1日(水)	秋学期通常授業開始
	1日(水)~4日(土)	秋学期1次履修登録申請期間
	8日(水)~9日(木)	秋学期2次履修登録申請期間
	11日(土)、13日(月)	履修登録訂正期間
	13日(月)	授業実施日
11月	31日(金)	紫祭準備日
	1日(土)~2日(日)	紫祭
	3日(月)	紫祭後片付日
12月	24日(月)	通常授業実施日
	23日(火)	通常授業実施日
1月	29日(月)~1月8日(木)	冬季休業
	8日(木)	創立記念日
	9日(金)	通常授業開始
	17日(土)~18日(日)	大学入試センター試験(休講)
	21日(水)~24日(土)、27日(火)、2月2日(月)	授業評価期間
2月	28日(水)~31日(土)	補講期間
	3日(火)~9日(月)	秋学期定期試験期間
	10日(火)	秋学期定期試験予備日・追試験日
3月	12日(木)~28日(土)	補講期間(集中講義等あり)
	1日(日)~31日(火)	春季休業(集中講義・学生面談等あり)
	5日(木)	卒業・修了発表
	11日(水)	進級発表
	18日(水)	卒業式

節電の取組み

本学における節電への意識的な取り組みを始めて、4年が経ちます。開始当時は、電力供給量の激減から、節電を強いられた実施でした。初年度から学生が作成した節電ポスターを校内に掲示し、昼休みの時間には消灯、エアコンの設定温度の調整などを行っています。学生の皆さんが作成する節電ポスターはとてもユニークなものばかり、毎年楽しみにしています。

平成26年度節電対策につき、節電機器の導入を進めるとともに、これまでと同様に教職員・学生の理解のもと節電意識を醸成、一層の改善効果をあげるべく取り組んでおります。今後とも御協力をお願い申し上げます。

〈平成26年度 取り組み内容〉

- ①クールビズ、ウォームビズを推奨する。
- ②夏季室内温度は、室温28℃とする。  
(気温上昇時はエアコン設定温度を下げ調整)
- ③昼休み時間に、職員・学生による館内放送を毎日実施。節電意識の醸成と実践。
- ④昼休み時間帯の消灯。

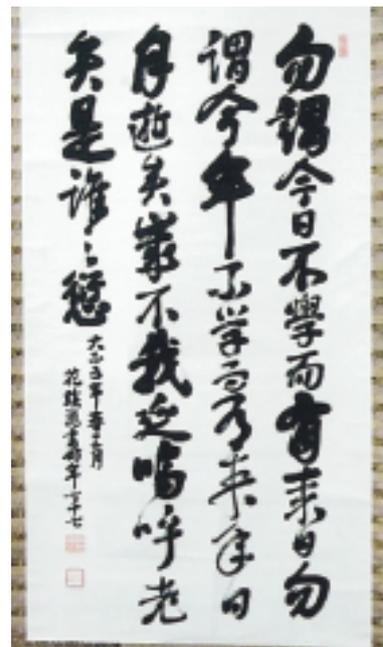
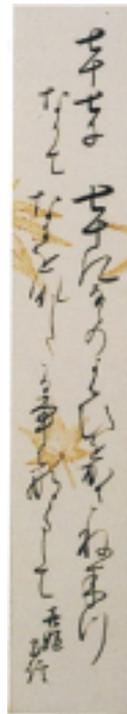


この夏、萌生一丸とって節電ダイエットを



花蹊記念資料館だより

勿謂今日不學而有来日 という書きはじめの朱文公勸学文を跡見花蹊が書いたのは、七十七歳の大正五年のことである。日々、精進を重ね本学を開学し、女子教育に生涯をささげた花蹊は、生徒たちに向けて学問の勤めをしながら、一方で「七十七になりて 七十になゝのよはひを重ね来つ なにをなしたる事もなくして 喜嫗 花蹊」とも詠んでいる。これだけの偉業を成し遂げた自身に対しては、あくまでも厳しい姿勢で甘やかすことをしていない。これを言われた我々は身の処しどころもない。本収蔵品は跡見純弘コレクションの中の一つ。小品の短冊であるが、作品としては、よく目にする朱文公勸学文の漢字文とこの短冊のかな文字とを比較してみることも楽しい。【法量 36.5×6.0cm】



(花蹊記念資料館所蔵)

● 編集後記 ●

過ごしやすい季節となりました。

今号では夏期海外研修に参加した学生の体験報告等、夏休み中どのような活動を学生が行ってきたのかをご紹介いたしました。

11月1日、2日には紫祭が開催されます。みなさまのご来校を心よりお待ちしております。

今後とも本学の取り組みについて、たくさんの情報をお届けしていきたいと思っております。